階級の幅

資料をいくつかの区間に分けるとき，１つ１つの区間のことを階級といい，区間の大きさを階級の幅という。ふつう，階級の幅は等しくなるようにとる（階級によって，階級の幅を変えない)。

下の表１は中学１年の男子 20 人の 50m 走の記録であり，表２は資料の散らばりが分かりやすいように，記録を 0.5 秒ずつに区切って，その間に入る人数を調べたものである。表２の「6.5 以上 7.0 未満」のような区間が階級であり，0.5 秒が階級の幅である。

50m走の記録（表1）

番号	記録（秒）	番号	記録（秒）
1	8.6	11	9.1
2	7.8	12	7.9
3	8.2	13	6.8
4	8.4	14	8.3
5	7.1	15	8.6
6	8.1	16	7.5
7	8.7	17	8.1
8	7.3	18	7.6
9	8.2	19	8.4
10	7.6	20	8.8

50m走の記録（表2）

記録（秒）	人数（人）
以上 6.5 ～ 7.0 未満	1
7.0 ～ 7.5	2
7.5 ～ 8.0	5
8.0 ～ 8.5	7
8.5 ～ 9.0	4
9.0 ～ 9.5	1
計	20

男子 20 人の 50m 走の記録について，表 2 は階級の幅を 0.5 秒，表 3 は階級の幅を 1.5 秒にしたものである。表 3 のように階級の幅を大きくすると，階級の数が少なくなって，資料の散らばり方がつかみにくくなる。

50m走の記録（表2）

記録（秒）	人数（人）
以上　　未満 6.5 ～ 7.0	1
7.0 ～ 7.5	2
7.5 ～ 8.0	5
8.0 ～ 8.5	7
8.5 ～ 9.0	4
9.0 ～ 9.5	1
計	20

50m走の記録（表3）

記録（秒）	人数（人）
以上　　未満 6.5 ～ 8.0	8
8.0 ～ 9.5	12
計	20

【参考】

資料の数などによっても違うが，ふつうは，階級の数が 6～10 くらいになるように，階級の幅を決める。（資料の最大値と最小値の差を範囲という。度数分布表をつくるときは，範囲を 6～10 でわって商を求め，その中から適当な階級の幅を決めるのがコツである。）